

## 食べ寝するだけの人形の様だ

そこへ、担任のかんちゃんが来て、かんちゃんも、自分の席を占領している僕や、そのまわりの生徒に睨みをきかせたが、鉄腕アトムマンガだと知って、僕の手から取り上げ、少し、パラパラ見て、再び、僕の手に戻してくれた。

「もう、あかん、全く、読む気せん。」と大人びいた顔して、他の読みたそうな奴に渡した。

しばらくして、休み時間が終わり、やっと、十時四十分になり、授業開始の「黙想」の声がかかる。

その後、身体検査。  
身長いくらあるのかなあと見たら、一メートル六十八センチ。  
この三ヶ月で三センチ伸びた。

まあ、朝なら、もう数ミリ高かったろうに。

家に帰り、兄貴のぶんの好き焼きをへつり、昼めしとする。  
弁当代もらって家を出たが、食べずに家に帰る。

その後、横になり、英会話のテープを少しやり、コッテン。

晩メシ食べて、また、コッテンと、眠る。

僕は一日中、ボーとしていて、あの人の事を思う毎日。  
まるで僕は、食べ寝するだけの人形の様だ。

まだ、鉄腕アトムの方が、心があり、生きている感じ。